



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935 2906
(公) 043 (222) 3937

No.

秘密の議決

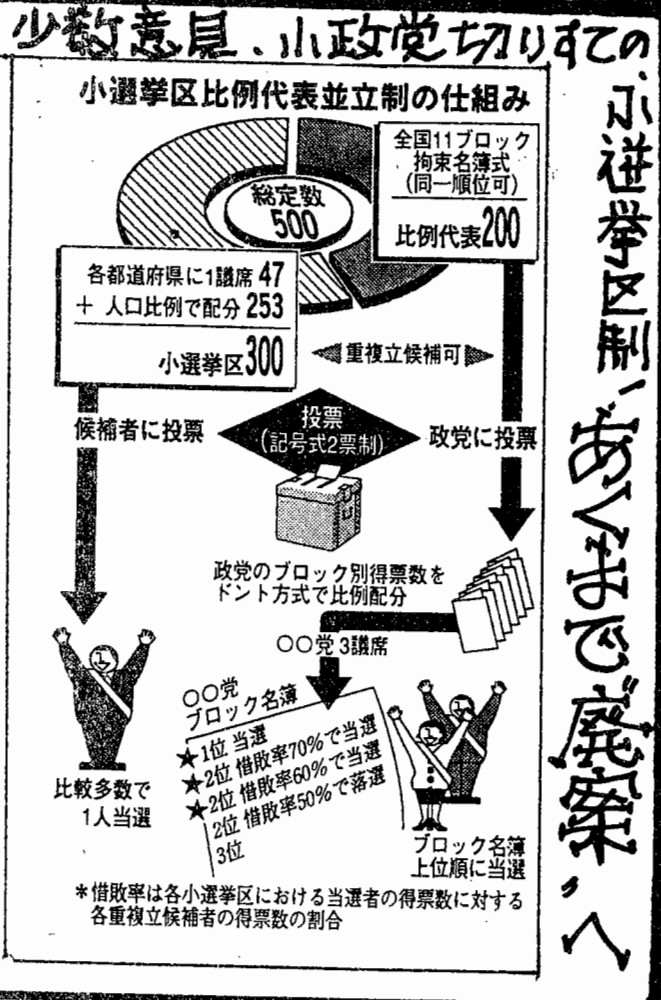
小沢内閣の暴行

小沢内閣の暴行と細川正体

一月二十九日、細川内閣は、自民党と結託し、小選挙区制をはじめとする政治「改革」法を起立採決で強行成立させた。

与野党あげたこの大暴挙を断じて許してはならない。

そもそも小選挙区制法案は参院で否決されたものであり、廃案にするのが議会政治の常道であろう。それを、こともあろうに自民党総裁との密室でのトップ会談(談合)で密約を結んで押し通すという前代未聞の大暴挙を行ったのである。まさに、この凶暴なやり方に、独裁体制をつくり出す小選挙区制の反動的本質を見ることが出来る。そして、自民党(案)に「土下座」してでも小選挙区制導入に執



細川政権を牛じている小沢は「日本改造」という本のなかで、「時代は変わった、世界に通用する国家にしなければならぬ」そのために「強力な政治のリーダーシップが必要」と強調し「与野党もたれあいの元凶は現行の中選挙区制だ」と言いなし、小選挙区制導入を国家改造攻撃の軸にすえている。小沢の狙いは小選挙区制の導

着する細川・小沢内閣の反人民性は隠しようもなく明らかになった。こうした歴史の逆流の中で社会党は、グラグラの危機の中で「骨格部分の修正には応じない」という態度すら棄て、法案に反対する

暗黒と独裁への道 小沢の「日本改造論」

入をテコにして一気に政党再編をすすめる、数度の選挙の繰り返して社会党や小政党を解体し、新生党へ脱皮するといふものである。そして「規制緩和」と「地方分権」で労働者人民の生活と福祉の全てを資本の自由にかかせ、利潤のあがらないものは全て切り捨てる。そのうえで、警察と教育は強力な国家統制のもとにおいて戦争の出来る国家体制を構築するといふものである。細川・小沢政権は「自民党よりはましな政権」などでは全くないのである。

議員をどうかつしながら、強行採決に手を貸すという重大な誤ちを冒し、自ら解体加速させている。今や国会は、民意を圧殺し、少数意見を抹殺する小選挙区制賛成大合唱を行う翼賛国会と化している。

われわれは、重大な決意を固めこの荒廃しきった国会・政治情勢を見すえ、「小選挙区体制」との新たな闘いにすすまなければならない。

日本支配階級は、この「荒廃」を利用して、新生党・小沢を中心とした新保守一党独裁体制(それは独裁と戦争国家づくり)を一気にすすめるようとしているからである。

政界再編の激動を、巨大な「世直し」への幕開けに転化しよう。

小選挙区制を廃案へ 細川・小沢内閣を倒す